

2011年11月吉日

関係各位

医療法人聖和錦秀会 阪本病院
院長 桂田 俊武

三脇康生氏講演会のお知らせ

謹啓 清秋の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より医療法人聖和錦秀会阪本病院に皆様の温かいご支援とご理解を頂きまして、心より感謝申し上げます。

当院では今年度に阪本病理学研究所からの「精神医学に関する知識の復旧と啓発」のための資金援助を得て、べてるの家の講演会に続きまして公開の講演会を計画しております。その前段階として、小規模ですが、現在の精神医学の問題点は何か意識を共有すべく以下の講演会を当院内の会場で行います。

記

講師： 三脇 康生氏

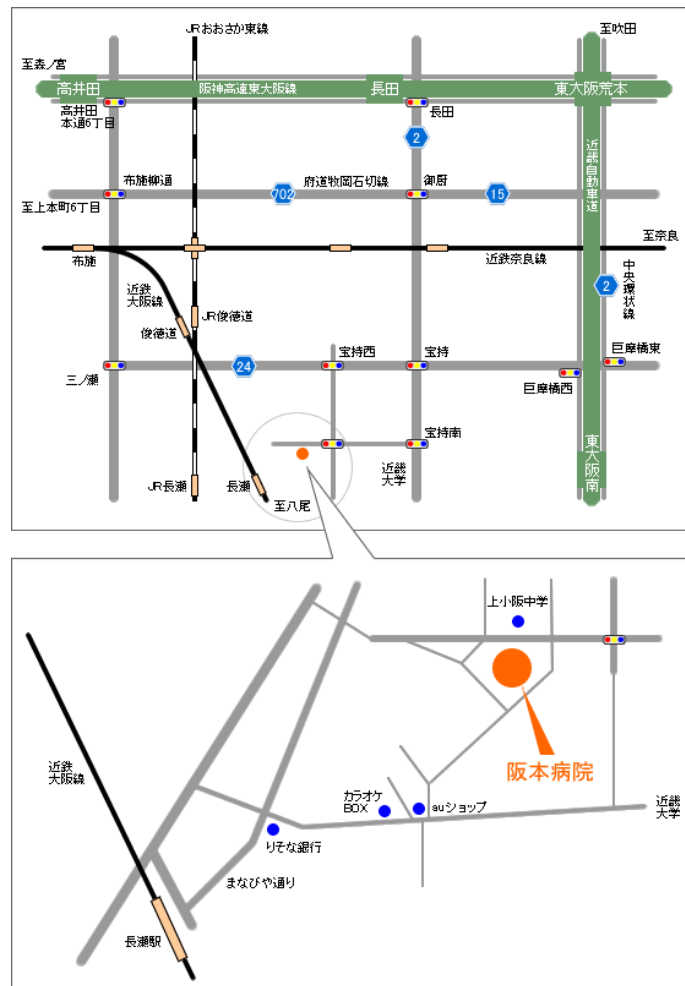
日時： 11月28日（月） 17：15～19：00

テーマ： 「精神の管理社会をどう超えるか」（共編著名）を中心にお話しいただく予定です。

場所： 医療法人聖和錦秀会 阪本病院 ふきのとう会議室（地図参照）

費用： 無料（お申し込みは必要ありません。直接お越してください。）

地図：



最近の治療は、病院での収容型の治療から、地域での治療へと大きく変化しつつあるようにみえます。当院でも12月にはべてるの家に来ていただいてセミナーを予定していて在宅治療には十分に力を入れています。

しかし、今までの治療共同体としての努力は何であったのでしょうか。

三脇氏は治療共同体と脱施設化の間をつなぐのは「制度分析」であるといいます。

たとえば、武井麻子はその治療共同体での努力の中で、感情労働の重要性に気づき、治療論として展開しようとした。つまり「制度」の分析に進もうとしたといいます。

「心の産毛」を大切にして、改革を進めなければなりません。それなくして、病院の治療は薬物療法を中心にした、短期の治療ということで、譲り渡して済ますことができるのでしょうか。

我々も、権威的構造によって上から自発的な動きを抑制することの重要性には気づくのですが、それを展開することのむずかしさに前進を阻まれます。

三脇氏は、フランスの「制度分析」の運動の中から広い視野でこの問題を論じてくださると思います。

さらにフランスの実践は、精神分析的治療の批判と応用を含んでいますし、フーコー以来の大きな社会的視野を持っています。

まさに精神医学を大きな視点から振り返る良い機会になることと思いますので、是非ご参加ください。

今回は講師のご都合でこのような時間設定になってしまい、申し訳ございません。次回以後はご参加いただきやすいように努めたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。

講師プロフィール

京都大学医学部卒業後、滋賀県にある湖南病院で精神科医として研修した。その後パリ第一大学大学院科学哲学科 DEA 過程と京都大学大学院医学研究科博士課程社会医学専攻を卒業（医学博士）。種々の病院で精神科医として診療しながら、現在、仁愛大学大学院（臨床心理コース）教授。「精神の管理社会をどう超えるか」など編著書多数。

問い合わせ：

医療法人聖和錦秀会 阪本病院

大阪府東大阪市西上小阪7-17

TEL 06-6721-0344

FAX 06-6730-3616

阪本病院公開セミナー事務局 夫（フ）、吉村